

事例 40

- 性 別 女性
- 年 齢 93 歳
- 介護環境 介護老人福祉施設
- 最も類似する状態像の例 5 - 4
- 要介護度変更 要介護 4 → 要介護 5

●審査及び判定の概要

ほぼ寝たきりの状態にあり、発語や意欲の低下が見られる事例。

介護認定審査会では、特記事項及び主治医意見書を基に介護の必要性について検討が行われ、「排尿の介助に通常よりも時間がかかりかかっているのではないか」との意見が出された。状態像の例との比較も含め検討した結果、要介護 5 に変更した。

介護審査会資料

申請区分：新規申請
被保険者区分：第1号被保険者

年 齢	93
性 別	女
過去の認定審査会結果	なし
前回認定有効期間	
前回介護保険審査会結果	なし
一次判定結果	要介護4 一次判定警告コード:
要介護認定等基準時間	93分 機能訓練+間接生活介助: 11分

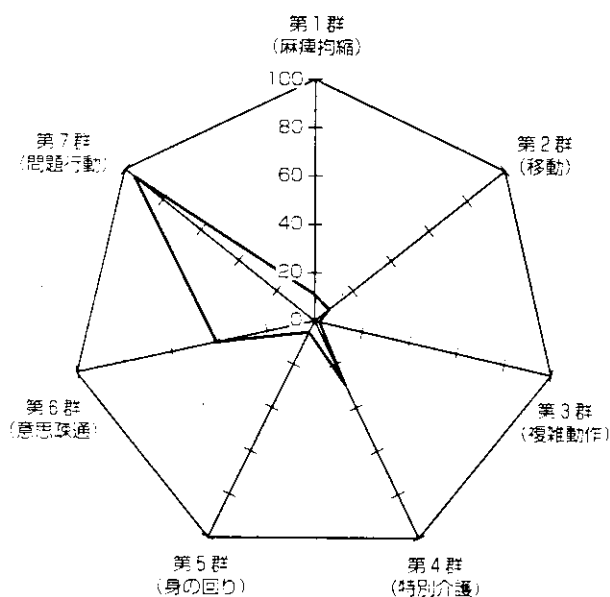
[REDACTED]

現在の状況	介護老人福祉施設
訪問介護（ホームヘルプサービス）	0回／月
訪問入浴介護	0回／月
訪問看護	0回／月
訪問リハビリテーション	0回／月
居宅療養管理指導	0回／月
通所介護（デイサービス）	0回／月
通所リハビリテーション（デイケア）	0回／月
福祉用具貸与	0品目
短期入所生活介護	0日／月
短期入所療養介護	0日／月
痴呆対応型共同生活介護	0日／月
特定施設入所者生活介護	0日／月
福祉用具購入	0品目／6月間
住宅改修	なし

彈害老人自立屋：C1

痴呆性老人自立度：Ⅲa

中間評価項目表



中間評価項目得点

第1群	第2群	第3群	第4群	第5群	第6群	第7群
12.7	78	14	271	45	41.0	94.8

（三）三三制

点滴の管理	気管切開の処置	
中心静脈栄養	疼痛の看護	
透 析	経管栄養	
ストーマの処置	モニター測定	
酸素療法	褥瘡の処置	ある
レスピレーター	カテーテル	

第1群 (麻痺拘縮)	1. 麻 痺 (左-上肢)	ある	
	(右-上肢)	ある	
	(左-下肢)		
	(右-下肢)		
	(その他)		
	2. 拘 縮 (肩関節)	ある	
	(肘関節)	ある	
	(股関節)	ある	
	(膝関節)	ある	
	(足関節)	ある	
	(その他)		
第2群 (移動)	1. 寝返り	できない	
	2. 起き上がり	できない	
	3. 両足での座位	支えが必要	
	4. 両足つかない座位	支えが必要	
	5. 両足での立位	できない	
	6. 歩 行	できない	
	7. 移 乗	全介助	
第3群 (複雑動作)	1. 立ち上がり	できない	
	2. 片足での立位	できない	
	3. 浴槽の出入り	全介助	
	4. 洗 身	全介助	
第4群 (特別介護)	1. ア. じよくそう イ. 皮膚疾患	ある ある	
	2. 片手胸元持ち上げ		
	3. 嚥 下	見守りが必要	
	4. ア. 尿 意 イ. 便 意	ない ない	
	5. 排尿後の後始末	全介助	
	6. 排便後の後始末	全介助	
	7. 食事摂取	見守りが必要	
第5群 (身の回り)	1. ア. 口肛清潔 イ. 洗 顔 ウ. 整 髪 エ. つめ切り	全介助 全介助 全介助 全介助	
	2. ア. ボタンのかけはずし イ. 上衣の着脱 ウ. スポン等の着脱 エ. 靴下の着脱	全介助 全介助 全介助 全介助	
	3. 居室の掃除	全介助	
	4. 薬の内服	全介助	
	5. 金銭の管理	全介助	
	6. ひとい物忘れ	ある	
	7. 周迎への無関心		
	第6群 (意思疎通)	1. 視 力	目の前が見える
		2. 聴 力	大声が聴こえる
		3. 意思の伝達	ときどきできる
		4. 指示への反応	ときどき通じる
		5. ア. 毎日の日課を理解 イ. 生年月日をいう ウ. 短期記憶 エ. 自分の名前をいう オ. 今の季節を理解 カ. 場所の理解	できない できない できない できない できない できない
		第7群 (問題行動)	ア. 被害的
イ. 作 話			
ウ. 幻視幻聴			
エ. 感情が不安定	ときどきある		
オ. 昼夜逆転			
カ. 暴言暴行			
キ. 同じ話をする			
ク. 大声をだす			
ケ. 介護に抵抗			
コ. 常時の徘徊			
サ. 落ち着きなし	ときどきある		
シ. 外出して戻れない			
ス. 一人で出たがる			
セ. 収集癖			
ソ. 火の不始末			
タ. 物や衣類を壊す			
チ. 不潔行為			
ツ. 異食行動			
テ. 性的迷惑行動			

認定調査票（特記事項）

1. 麻痺・拘縮に関連する項目についての特記事項

- (1-1 麻痺等の有無) 両下肢筋力低下のため、歩行できない。
- (1-2 関節の動く範囲の制限の有無) 膝関節は曲がって拘縮し、伸びない（45°位）。股関節の拘縮もあり、オムツ交換時、足が開きにくい。左肩、肘関節は拘縮気味で、動かすと痛がる。

2. 移動等に関連する項目についての特記事項

- (2-1 寝返り、2-2 起き上がり) 両手は動くため、声かけをするが、まったくしようとしなない。
- (2-3 両足がついた状態での座位保持) 背もたれがあればできる。
- (2-7 移乗) 車いす全介助。

3. 複雑な動作等に関連する項目についての特記事項

- (3-3 一般家庭用浴槽の出入り) 両足は支えてあげれば立つが、すぐ座り込むため、全介助。
- (3-4 洗身) 声かけをしても、痴呆のため洗おうとしない。

4. 特別な介護等に関連する項目についての特記事項

- (4-1 ア 褥瘡の有無) 仙骨部小豆大の褥瘡。処置中。陰部、腰部右、湿布軟膏処置。
- (4-3 嚥下) 声かけ、見守りをしないと進まず、いつまでも口の中に入れ、食べ物が残っている。
- (4-4 尿意・便意) 膀胱機能低下のため、膀胱部を圧迫してあげないと出ない。排便時もオムツ使用。

5. 身の回りの世話等に関連する項目についての特記事項

- (5-1 清潔、5-2 衣服着脱) 声かけをしてもしようとしなない。ボーっとしている。
- (5-4 薬の内服) 飲みこぼしが多く、口に入れてあげないと完全に入らない。
- (5-6 ひどい物忘れ) 寸前のことも忘れる。
- (5-7 周囲への無関心) 居室に職員が入ると他者のことでも、自分のほうへ職員を呼ぶ。

6. コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

(6-2 聴力) 耳元で大声で話せば聴こえる。

(6-3 意思の伝達) 自分から意思表示することが月に1～2回程度で、介護者の言っている内容は伝わらず、指示にもはっきりと反応しないので、意思疎通が困難である。

(6-5 エ 自分の名前をいう) 自分の名前は問えばうなづく。調子のよい時には姓名まで言う。

7. 問題行動等に関連する項目についての特記事項

(エ 感情が不安定) 会話中、とくに家族の面会時、精神不安定となり、感情失禁がみられる。

(サ 落ち着きなし) 面会時、家に帰りたがり、しばらく動揺する。

8. 特別な医療についての特記事項

(褥瘡の処置) 仙骨部の処置 (毎日)。

概況調査 IV

「調査対象者の主訴、家族状況、住居環境、虐待の有無等について特記すべき事項」

- ・ 平成6年、うつ病、痴呆症状が出現。左膝関節症にて次第に歩行困難となる。
- ・ 平成7年入所。
- ・ 痴呆判定は中度、脳血管性痴呆の診断あり。
- ・ 神経因性膀胱のため、尿はすっきり出ず、残尿あり。6時間おきにポータブルトイレ介助で膀胱を圧迫して出している。現在も継続中。
- ・ 車いすを使用。

主治医意見書

記入日 平成12年 1 月 〇 日

申請者	(ふりがな)	男 ・ 女 ○	〒 - 連絡先 ()
	明・大・昭 年 月 日生(93歳)		
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 本意見書が介護サービス計画作成に利用されることに ☐ 同意する。 ☐ 同意しない。			
医師氏名		電話 ()	
医療機関名		FAX ()	
医療機関所在地			
(1) 最終診察日	平成 12 年 1 月 〇 日		
(2) 意見書作成回数	☒ 初回 ☐ 2 回目以上		
(3) 他科受診の有無	☒ 有 ☐ 無 (有の場合) → ☐ 内科 ☒ 精神科 ☐ 外科 ☐ 整形外科 ☐ 脳神経外科 ☐ 皮膚科 ☐ 泌尿器科 ☐ 婦人科 ☐ 眼科 ☐ 耳鼻咽喉科 ☐ リハビリテーション科 ☐ 歯科 ☐ その他 ()		

1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (特定疾病または障害の直接の原因となっている傷病名については1. に記入) 及び発症年月日			
1. 脳血管性痴呆	発症年月日	(昭和・平成)	7 年 11 月 日頃
2. 貧血	発症年月日	(昭和・平成)	8 年 3 月 日頃
3. 便秘	発症年月日	(昭和・平成)	8 年 4 月 日頃
(2) 症状としての安定性		☒ 安定 ☐ 不安定 ☐ 不明	
(3) 介護の必要の程度に関する予後の見通し		☐ 改善 ☒ 不変 ☐ 悪化	
(4) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容 (最近6ヶ月以内に変化のあったもの 及び 特定疾病についてはその診断の根拠等について記入)			
日常生活自立への意欲がまったくなし。 次第に筋力低下し、ほぼ寝たきりの状態となった。 処方：緩下剤			

2. 特別な医療 (過去14日間以内に受けた医療のすべてにチェック)

処置内容	☐ 点滴の管理	☐ 中心静脈栄養	☐ 透析	☐ ストーマの処置	☐ 酸素療法
	☐ レスビレーター	☐ 気管切開の処置	☐ 疼痛の看護	☐ 経管栄養	
特別な対応	☐ モニター測定 (血圧、心拍、酸素飽和度等) ☐ 褥瘡の処置				
失禁への対応	☐ カテーテル (コンドームカテーテル、留置カテーテル 等)				

3. 心身の状態に関する意見

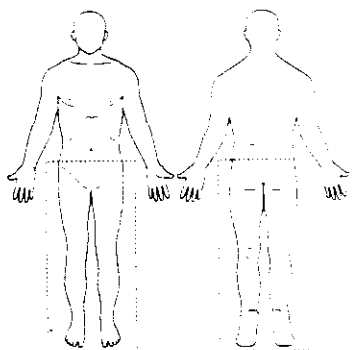
(1) 日常生活の自立度等について	
・障害老人の日常生活自立度 (寝たきり度)	☐ 正常 ☐ J1 ☐ J2 ☐ A1 ☐ A2 ☐ B1 ☒ B2 ☐ C1 ☐ C2
・痴呆性老人の日常生活自立度	☐ 正常 ☐ I ☐ IIa ☒ IIb ☐ IIIa ☐ IIIb ☐ IV ☐ M
(2) 理解および記憶	
・短期記憶	☐ 問題なし ☒ 問題あり
・日常の意思決定を行うための認知能力	☐ 自立 ☐ いくらか困難 ☒ 見守りが必要 ☐ 判断できない
・自分の意思の伝達能力	☐ 伝えられる ☐ いくらか困難 ☒ 具体的要求に限られる ☐ 伝えられない
・食事	☒ 自立ないし何とか自分で食べられる ☐ 全面介助
(3) 問題行動の有無 (該当する項目全てチェック)	
☐ 有 ☒ 無 (有の場合) → ☐ 幻視・幻聴 ☐ 妄想 ☐ 昼夜逆転 ☐ 暴言 ☐ 暴行 ☐ 介護への抵抗 ☐ 徘徊 ☐ 火の不始末 ☐ 不潔行為 ☐ 異食行動 ☐ 性的問題行動 ☐ その他 ()	

(4) 精神・神経症状の有無
☒有 (症状名脳血管性痴呆) ☐無
 (有の場合) → 専門医受診の有無 ☒有 精神科 ☐無

(5) 身体の状態
 利き腕 (☒右 ☐左) 体重 = 43.6 kg 身長 = 142 cm

☐四肢欠損 (部位: 程度: ☐軽 ☐中 ☐重)
☐麻痺 (部位: 程度: ☐軽 ☐中 ☐重)
☒筋力の低下 (部位: 両下肢 程度: ☐軽 ☒中 ☐重)
☐褥瘡 (部位: 程度: ☐軽 ☐中 ☐重)
☐その他皮膚疾患 (部位: 程度: ☐軽 ☐中 ☐重)
☐関節の拘縮 ・肩関節 ☐右 ☐左 ・股関節 ☐右 ☐左
 ・肘関節 ☐右 ☐左 ・膝関節 ☐右 ☐左
☐失調・不随意運動・上肢 ☐右 ☐左 ・体幹 ☐右 ☐左
 ・下肢 ☐右 ☐左

凡例



4. 介護に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針
☐尿失禁 ☐転倒・骨折 ☐徘徊 ☐褥瘡 ☐嚥下性肺炎 ☐腸閉塞 ☐易感染性
☐心肺機能の低下 ☐痛み ☐脱水 ☐その他 ()
 → 対処方針 ()

(2) 医学的管理の必要性 (特に必要性の高いものには下線を引いて下さい)
☒訪問診療 ☐短期入所療養介護 ☐訪問栄養食事指導
☒訪問看護 ☐訪問歯科診療 ☐その他 ()
☒訪問リハビリテーション ☐訪問歯科衛生指導
☒通所リハビリテーション ☐訪問薬剤管理指導

(3) 介護サービス (入浴サービス、訪問介護等) における医学的観点からの留意事項
 ・血圧について ☒特になし ☐あり
 ・嚥下について ☒特になし ☐あり
 ・摂食について ☒特になし ☐あり
 ・移動について ☐特になし ☒あり 車いす移乗時に介助が必要
 ・その他

(4) 感染症の有無 (有の場合は具体的に記入して下さい)
☐有 ☒無 ☐不明

5. その他特記すべき事項

要介護認定に必要な医学的なご意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。

精神科の痴呆重症度判定では中等度と判定されている。